

1 年間の教育活動の反省と改善点

1 基礎学力の向上

(1) 基礎学力の基礎づくり

気づき・考え・行動し・生かす習慣化に取り組んだか。
「三点固定運動」の定着は図れたか。
チャイムによる開始・終了する授業を実践したか。

《1 年間の成果》

- ・ 周囲への目配りの意識が高まり、落とし物が放置されることがなくなった。
- ・ 自分のことだけでなく周りのことに目を向けさせるようにして習慣化を図った。
- ・ 起床、就寝時刻は、ほぼ固定化されてきた。
- ・ 学習を始める時刻も、毎日記録させることで固定化してきた。
- ・ 平日の「三点固定運動」は定着してきた。
- ・ 週の始め、終わりに三点固定の大切さを伝え定着を図った。
- ・ チャイムによる開始、終了する授業に心がけ、児童もチャイムには着席できるようになった。
- ・ チャイムの合図で開始・終了できるよう授業の組み立てをしっかりと考えた。
- ・ チャイム前に次の授業の準備を整える態度が身についてきた。
- ・ 目気心ウィークを中心に気づき、考え、行動するようになってきた。

《今後、改善したいこと》

- ・ 「気づき、考え、行動し、生かす」場面に広がりを持たせるため、朝や帰りの会で教師から（または児童相互に）知らせる機会を増やしたい。そのために教師自らが児童の行動に対し、アンテナを高く張っておく必要がある。
- ・ さらに気づき、考え、行動できるように言葉かけをする。
- ・ 休日の起床時刻や就寝時刻を、平日とできるだけ同じようにさせる。
- ・ 授業が長引かないようにする。
- ・ もっと視野を広くできるよう指導していきたい。
- ・ 週末にも三点固定できるよう言葉かけをしていきたい。
- ・ より教材研究に努める。

(2) 基礎基本の定着と活用能力の育成

少人数複式授業の効果的な授業のあり方を追及したか。
めりはりのある熊本型授業の展開に努めたか。
全国学力テスト・ゆうチャレンジ問題の意図・結果を授業に生かしたか。

《1 年間の成果》

- ・ 「しか刺し」「しし鍋」学習の流れが身についた。
- ・ 「しか刺し」「しし鍋」を意識して間接指導の時間を工夫し実践した。
- ・ 見やすいノートづくりを指導し、間接指導の自力解決時に自分のノートが手助けになるようにした。
- ・ 学力調査の問題を再度、指導と一緒に見ながら、どんな力をつけることが、今後求められているのかを話し合い、授業でもその力を伸ばすことを意識した。
- ・ 県学力調査に向け、過去問題や類似問題を多くさせたので結果が出せた。
- ・ 児童の考える時間をできるだけ多く確保し、教師の話を短くした。
- ・ 一人に20分もしくは12分確実に関わることができると発想を切り替え授業実

践に努めた。

- ・ 徹底と能動のバランスを単元の前半と後半の授業の中で割合を変えながら実践した。
- ・ 自分の知っている言葉を使って考えをまとめさせるよう努めた。

《今後、改善したいこと》

- ・ 読書活動と関連させながら語彙の力を高めることで、課題を短時間で正確につかませたり、発表やまとめを活性化させたりしたい。
- ・ 算数の授業だけでなく他教科にも反映させる。
- ・ 発問の工夫や間接指導に入る前の指示の内容を工夫する。
- ・ さらに授業中にゆうチャレンジに類似した問題をさせる。
- ・ 間接指導の充実が図れるようにしていきたい。
- ・ 能動の時間がより多く確保できるよう努めたい。
- ・ 多様な考えが持てるような授業実践に努めたい。

(3) 個に応じた教育活動の充実

児童の理解度に応じたステップ学習に取り組んだか。
補充個人指導（トライタイム）の工夫充実に努めたか。
公開に耐えられる適切な評価補助簿の記帳に努めたか。

《1年間の成果》

- ・ 習熟度の合わせたステップ学習を行い、基礎固めができた。
- ・ 理解の状況に合わせ個別指導を実施した。
- ・ 一人一人に理解度に応じた問題をさせた。
- ・ 児童一人一人の理解度に合わせ、学習内容を考え取り組ませた。
- ・ 計画的な補習で忘れる以上に覚え直した部分が増えた。
- ・ 単元ごとにきちんと評価を行った。
- ・ 授業での様子、業者テストの記録等を考慮し、本校の様式により評価した。
- ・ トライタイム以外にも余裕の時間や浅茅集の内容を工夫し学力充実に努めた。
- ・ 評価項目について適切に評価し、学期ごとに一覧表にまとめた。

《今後、改善したいこと》

- ・ 一人の学年の児童にもスピードアップを意識させる工夫をしたい。
- ・ さらに児童の理解度に合わせた問題作成をする。
- ・ 基礎基本の定着のため、今後も実態の把握、適切な学習に努めたい。
- ・ 少人数を生かし個別指導を工夫していきたい。
- ・ 限られた時間の中で効率的にできるように工夫し、家庭学習の充実を図る。
- ・ 毎時間ごとの評価も一覧表にできるようにしたい。
- ・ 今後も継続的な評価補助簿の記帳に努めたい。

2 豊かな心の育成

(1) 人権教育の充実

本校の人権課題の把握に努め、共有化を図ったか。
自他ともに大切な存在を認める取組ができたか。
差別意識の解消に向けた取組を進めたか。

《1年間の成果》

- ・ 児童の様子について、日常的に情報交換し、共有化が図られた。

- ・ 本校の子どもたちをしっかりと見つめ、人権課題の把握に努めてきた。
- ・ 地域の方々の協力がある行事の際、自分たちのために、どんな準備をされているか気をつけて見るよう事前指導し、感謝の心を持たせることができた。
- ・ 人権意識を高めるために授業だけでなく、日常的に言葉かけを行った。
- ・ 目気心ウィークをもとに「あったかハートの木」を掲示し、人権意識を高めた。
- ・ 「花咲き山」で優しい行動について実践化を図った。
- ・ 差別につながるような言動があったとき、その場で指導をした。
- ・ 子どもたちの発言内容、行動などアンテナを張り、その場での指導に努めてきた。

《今後、改善したいこと》

- ・ 自分のいいところがよく分からない児童が何人もいるので、機会あるごとに伝え合うようにしたい。
- ・ 差別問題についてより研修を深めたい。
- ・ 差別の歴史など理論研修を行う。
- ・ さらに他人を思いやる気持ちを育てる取組を行う。
- ・ よりよい人間関係の構築ができるような指導をしていきたい。
- ・ 児童の言動にしっかり耳を傾け、その場で指導をしていく。
- ・ より一層子どもたちの様子に目を配っていきたい。

(2) 道徳の時間の充実

「展開の概要」を活用した授業を展開したか。
 実態把握に努め、適切な教材で心に響く展開ができたか。
 他領域と連携した体験的な道徳教育を推進したか。

《1年間の成果》

- ・ 「展開の概要」を基にした授業の流れを意識して取り組んだ。
- ・ 「展開の概要」を活用した授業を毎時間行うことができた。
- ・ 「展開の概要」と指導書を関連させ、授業を展開してきた。
- ・ 年間計画に基づき適切な教材で授業をすることができた。
- ・ 年間計画の「学校行事、体験活動等」の欄を見て、道徳の授業と関連した体験
- ・ 年間指導計画に基づき児童の実態に応じた適切な教材での授業に努めた。
 ができるべく近くなるように工夫した。
- ・ 他領域と連携した体験的な道徳教育ができた。
- ・ 自然愛護など体験的な道徳教育に努めた。

《今後、改善したいこと》

- ・ 授業外もしくは授業の導入部やまとめなど、「心のノート」に書き込ませることで自分を見つめさせることを、どのタイミングで行うと効果的かをもう少し吟味したい。
- ・ 「展開の概要」をもっと自分のものにした授業に努めたい。
- ・ より一層の実態の把握に努めたい。
- ・ 他領域との連携をより一層図りたい。

(3) 読書活動の推進

目標冊数や毎日読書に取り組ませたか。
 学校図書館を利活用した学習活動を推進したか。
 読書の重要性を伝え、家庭での読書を推進できたか。

《1年間の成果》

- ・ 図鑑や絵本などをたくさん活用することができた。
- ・ 読書の記録カードに記入させることで、ほんの5分間、2～3ページだけでも本を開こうとする習慣がついた。
- ・ 児童の発する言葉を聞き、言葉の力がついたことを実感したとき、読書による効果が上がっていることを繰り返し伝えた。
- ・ 目標冊数を決め、朝自習や昼の音読でも取り組むことができた。
- ・ 授業でもできるだけ学校図書館を利用することができた。
- ・ 「読書の達人」のカードと関連させながら取り組ませた。
- ・ 林先生が作成した読書カードを活用し、全校で毎日家庭読書に取り組むことができた。
- ・ 音読カードで保護者にも協力を求め、読むことの大切さを子どもたちを通して伝えた。

《今後、改善したいこと》

- ・ 図書館のどこに、どんな本があるのか熟知しておき、必要な場面ですぐに教えられるようにしておきたい。
- ・ もっとすらすら読めるようにし、個に応じて目標冊数を設定する。
- ・ いろいろな教科で、もっと学校図書館を利用する。
- ・ 家庭で読書だけでなく期間や時間を設定し、音読もさせるようにしたい。
- ・ 実態に応じた内容の本を選定し読書に取り組ませるなど、しっかりと本に親しませるようにしたい。
- ・ 利活用しやすい図書館作りに努めたい。
- ・ 親子読書や読み聞かせの推進を図りたい。

(4) ふるさと教育の充実

地域の人材・自然・文化にかかわる取組ができたか。
児童による「花一杯プランター100」は推進できたか。
学校版環境ISOの積極的な取組ができたか。

《1年間の成果》

- ・ 生き物の絵であれば鹿や山女魚を描き、風景画であれば山を紅く染めるなど、五感でこの地域独特の自然を感じていることを随所で垣間見ることができた。
- ・ 紙が必要な場面で新しい紙を使わず、進んで裏紙を使うようになった。
- ・ 裏紙の活用、こまめな電気の消灯に努めた。
- ・ 裏紙を使用し、電気をこまめに消すことができた。
- ・ いきいき学校づくり事業を中心に地域の人材、自然、文化に関わる取組ができた。
- ・ 花の植え替えや草取りなど取り組むことができた。
- ・ 季節の草花探し、神楽など地域とたくさん関わることができた。
- ・ 種まき、植え替えなどを子どもたちと一緒にやった。

《今後、改善したいこと》

- ・ 地域の自然や文化についてもっと調べさせたい。
- ・ 気候に応じた計画的な花を育てていきたい。
- ・ 無駄な電気をもっと減らすように言葉かけをしていく。
- ・ もっと校外に出て活動させたい。
- ・ はつみさんと一緒に活動し学校のまわりが一年中花いっぱいになるようにしたい。

- ・ 地域の自然を生かした腐葉土作りなどしていきたい。

3 健やかな心身の育成

(1) 学校保健体育の充実

新体力テスト結果を基にした体力強化策に取り組んだか。
汗をかく運動量を確保した体育の授業に取り組んだか。
自ら運動に親しむ業間体育・部活動を推進したか。

《1年間の成果》

- ・ 課題であった握力や走力を「にぎにぎチャレンジ」や「朝ラン」で底上げすることができた。
- ・ 豊富な運動量を確保する体育の授業づくりを工夫し、多くの汗をかかせた。
- ・ 子どもたちの発達段階に応じた運動量を確保した体育の授業ができた。
- ・ 各学年に応じた運動量を確保した体育の授業ができた。
- ・ 体育の授業を中心に新体力テスト結果を基にした体力強化ができた。
- ・ 吉村先生を中心に新体力テスト結果を基にした体力強化ができた。
- ・ 準備運動や基本の運動など高学年を中心に自主的に行うことができた。
- ・ 朝の活動、業間体育など全員で協力して自主的に行うことができた。

《今後、改善したいこと》

- ・ 家庭生活の中でも進んで体を動かしたくなるような取組を工夫したい。
- ・ 全員が全国や県平均を上回るように体力強化を行う。
- ・ 体力強化のための活動の工夫を図りたい。
- ・ さらにきびきびとした行動に心がけさせ運動量を確保する。
- ・ 全員で協力しながらより一層子どもたちが汗をかく体育の授業を考えたい。
- ・ より自主的に運動に親しめるよう声かけを行っていきたい。
- ・ 全体的に人数が少なくなるので種目など副卵が必要である。

(2) 学校安全・食育の充実

危険を予知し、回避する態度と実践力を育てたか。
「いかのおすし」を理解させ、不審者対策を講じたか。
整理整頓に心がけ、整然とした環境作りに心がけたか。
安全点検の確実な実施と改善に取り組んだか。
一人一場の無言清掃を通して、働く大切さを学ばせたか。
保護者への食育の重要性を理解させ、実践を図ったか。
楽しい給食に心がけ、偏食指導に取り組んだか。

《1年間の成果》

- ・ 保健の学習と関連させた危険予知や週末前の安全に関する学級指導などで、大きな事故や怪我がなく過ごすことができた。
- ・ 通学路や学校などに潜む危険について話し、その対応を考えさせた。
- ・ 栄養教諭を招いて学習をしたことを「松本先生から習ったことは？」と繰り返し投げかけることで、よく噛むことや食事のマナーについて意識づけることができた。
- ・ 様々な場面でどんな危険が潜んでいるかを考えさせるようにした。
- ・ 帰りの会などで「いかのおすし」を繰り返し話し、理解させた。
- ・ 「いかのおすし」について帰りの会などで繰り返し指導した。
- ・ 毎月一回の安全点検を確実に実施した。

- ・ 安全点検を確実に実施した。
- ・ 一人一人役割を分担し、清掃に励ませた。
- ・ 一人一場の無言清掃をとおして、働く大切さを学ばせた。
- ・ 食育の重要性について保護者と連携し、朝食を毎日食べるようになった。
- ・ P T A 総会などを活用し、保護者に食の重要性について話してきた、
- ・ 少しずつ嫌いなものを減らしていけるよう励ました。
- ・ 楽しい給食に心がけ、偏食指導に取り組んだ。
- ・ 学習の成果がわかり整然とした環境作りに努めた。

《今後、改善したいこと》

- ・ 使った物をすぐに戻すことを徹底させ、整った環境づくりをしたい。
- ・ 使った物は責任を持って片付ける習慣をつけさせる。
- ・ 季節に応じた危険予測のより一層の充実を図りたい。
- ・ 崖崩れなどの危険を予知する訓練をする。
- ・ より一層「いかのおすし」の徹底を図りたい。
- ・ 不審者対策訓練を行う。
- ・ 家庭でも偏食をなくす努力を呼びかける。
- ・ 季節に応じた環境作りに努めたい。
- ・ 学校安全の確保のための日常的な点検もしていきたい。
- ・ 清掃時間以外でも働くことの大切さを伝えていきたい。
- ・ より一層連携を図り食の重要性について伝えていきたい。
- ・ 偏食をなくす指導のより一層の充実を図りたい。

(3) 心の健康の推進

立ち止まって気持ちのよい挨拶ができる児童を育てたか。
 授業以外で、毎日クラスの児童一人一人に語りかけたか。
 目配り・気配り・心配りを意識して実践させたか。
 ソーシャルスキル学習を積極的に取り入れたか。

《 1 年間の成果》

- ・ 遠くからでも気持ちのよい挨拶ができる児童が増えた。
- ・ 気持ちのよい挨拶について実例を交えながら指導してきた。
- ・ 朝から体調が悪くないか、全児童の様子を見て、元気がないように見える子には必ず声をかけるようにした。
- ・ 立ち止まって挨拶はできるようになった。
- ・ 朝の挨拶時、休み時間等にもたくさんのお話をした。
- ・ 授業以外でも毎日、全校児童に話すことができた。
- ・ 周りにしっかりと目を配り、行動させるようにした。
- ・ 目気心ウィークを中心に目配り、気配り、心配りを意識して実践させた。
- ・ ソーシャルスキル学習を取り入れた。
- ・ 具体的な方法を交えながら指導してきた。

《今後、改善したいこと》

- ・ 朝から教室で笑顔になる雰囲気づくりにさらに努めたい。
- ・ 観光客の方へも自然に挨拶できるよう、挨拶の良さをしっかりと伝えていきたい。
- ・ 気持ちのよい挨拶ができないときがあったので、いつも大きな声で気持ちを込めて挨拶ができるようにさせる。
- ・ 目気心ウィーク以外も意識して実践できるようにする。
- ・ 校内研でソーシャルスキル学習の理論研修をする。

- ・ よりよい人間関係が作れるようなスキルの充実を図りたい。
- ・ 今後とも一人ひとりにしっかりと話しかけていきたい。
- ・ 今後も周りの人たちを大切にすることをしっかりと持たせていきたい。

4 信頼される学校づくり

(1) くまもとの教職員像の追及

児童一人一人に愛情を持って教育活動に取り組んだか。
 組織の一員を自覚して課題解決に取り組んだか。
 保護者や地域を意識して、積極的に関わったか。
 法令等に抵触しないような言動に心がけたか。

《 1 年間の成果 》

- ・ 「どこまで力を伸ばしたいか」を念頭に置いて、子どもが嫌そうにしても最後までして、できたら十分にほめた。
- ・ 保護者との会話を重ね、保護者一人一人がどんな想いを持っているのか理解を深めた。
- ・ 子どもたち一人一人の特長を知り、愛情を持って接してきた。
- ・ 児童一人一人に愛情を持って教育活動に取り組んだ。
- ・ 組織の一員を自覚して課題解決に取り組んだ。
- ・ 樺木天満宮祭やモグラうちなど、保護者や地域の人たちを積極的に関わってきた。
- ・ 保護者や地域を意識して積極的に関わった。
- ・ 八小の職員として職務を遂行してきた。
- ・ 法令等に抵触しないような言動に心がけた。
- ・ 法令を遵守し行動してきた。

《 今後、改善したいこと 》

- ・ 法令に対する知識を増やしたい。
- ・ 熱意をどんどん子どもたちに伝え、お互いにパワーを与え合えるようにしたい。
- ・ 本校の課題に目を向け、積極的にアイデアを出し、校長、教頭の指導の下、全校で取り組む。
- ・ 子どもたちのより一層の理解に努めたい。
- ・ 組織の一員であることの自覚を忘れずに職務にあたりたい。
- ・ 今後とも地域行事にしっかりと協力していきたい。
- ・ 一社会人として法令を遵守するとともに、モラルを守り、思いやりを持った行動をとっていきたい。